2027年3月期 上半期
連結決算サマリー

株式会社インターネットイニシアティブ（IIJ）
プライム市場（証券コード：3774）
2026年11月6日

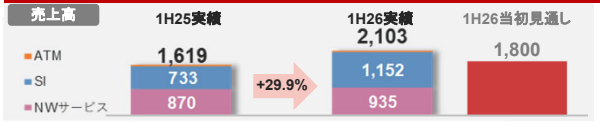
事業等のリスク
本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。

© Internet Initiative Japan Inc.

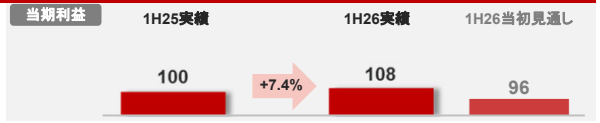
Ⅰ - 1. 決算総括

単位：億円
+%、YoY = 前年同期比
当期利益は親会社の所有者に帰属する利益を表示

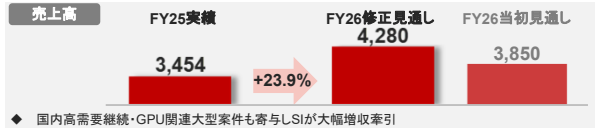
企業NW・システム変遷を背景にNW技術・運用力で構造的事業拡大期へ
売上高見通し 上期大幅超過・通期4,280億円へ修正
サイバーセキュリティ・AI需要拡大　今後の競争優位性より発揮を期待



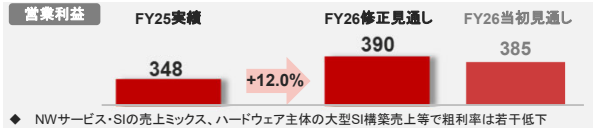




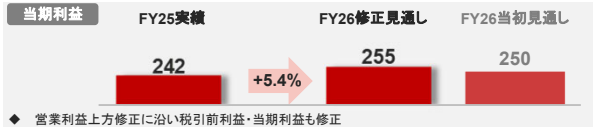
FY26通期見通し（上方修正）



◆ 国内高需要継続・GPU関連大型案件も寄与しSIが大幅増収牽引



◆ NWサービス・SIの売上ミックス、ハードウェア主体の大型SI構築売上等で粗利率は若干低下



◆ 営業利益上方修正に沿い税引前利益・当期利益も修正

NWサービス（除モバイル）	**641.1億円**	**+6.6%**
・IP	95.6億円	+3.5%
・アウトソーシング	361.8億円	+10.8%
・WAN	142.5億円	+1.7%

◆ IPサービス・アウトソーシングサービスが堅調に推移
◆ セキュリティサービス売上継続拡大 1H26 220.1億円・+11.8%YoY
　✓ 多様な業種でセキュリティコンサル・アセスメント、セキュアなインフラ構築等の需要増大
　✓ 自社サービス基盤は振る舞い検知・WAF多層化防御等で継続強化

モバイル・IoT	**294.3億円**	**+9.4%**
・法人	96.2億円	+9.5%
・MVNE	63.9億円	+9.7%
・個人	134.2億円	+9.2%

◆ 法人モバイル（IoT用途等）を中心に回線数は堅調に推移　総回線数：675万・+76万YoY
◆ モバイルデータ接続料単価年度推移・モバイル端末仕入増加等でYoY粗利若干低下・QoQでは向上
◆ SIM 1枚で国内2キャリア対応の「IIJマルチプロファイルSIM 2.0」を提供開始（26年8月）

SI	**1,152.1億円**	**+57.1%**
・構築	606.7億円	+114.4%
・運用保守	545.4億円	+21.1%

◆ 1H26受注

	受注額		受注残高	
構築	894億円	+526億円YoY	606億円	+364億円YoY
運用保守	809億円	+268億円YoY	1,533億円	+447億円YoY

◆ 1H26獲得大型案件（期間総額10億円以上）

1Q	GPU基盤構築（60億円）	モバイル端末提供（17億円）	官公庁向けNW構築・運用（15億円）	GPU基盤構築・運用（120億円）		
2Q	サービス事業者向けサーバ構築（10億円）	ITサービス事業者向けセキュリティ強化（15億円）	地方自治体向けITインフラ更改（10億円）	小売事業者向けDCインフラ再構築（20億円）	GPU基盤構築・運用（205億円）	他4件（140億円）

販売管理費等	**229.7億円**	**+16.4%**

◆ その他収益は退職金制度改定に伴う一時利益11.7億円（2Q25）の反動減を内包
◆ 販売管理費等は想定を若干下回り推移

その他トピックス

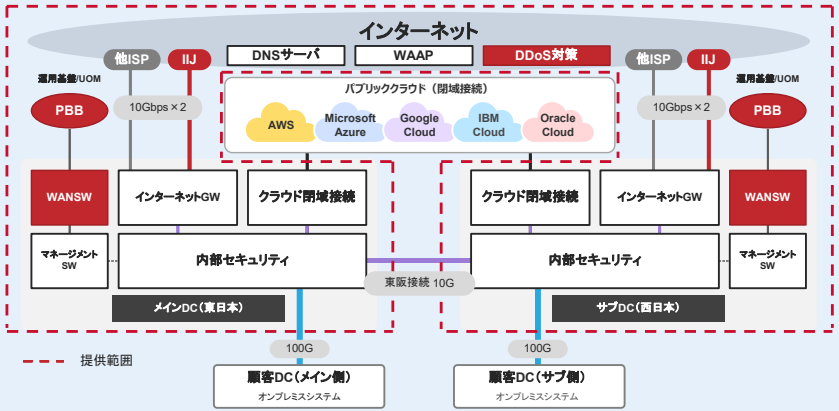
◆ 通信サービス各社の価格改定動向等を踏まえFY27期初に多法人向けNWサービスで価格改定を予定
◆ 総務省「ワット・ビット連携関連実証」採択で分散データセンター運用のユースケース拡充に向けた社会実証を開始（26年9月）
◆ DCP（持分法適用関連会社）：FY26下期ゆうちょ銀行様がトークン化預金発行予定、金融庁支援案件「トークン化預金の銀行間決済」検証に43社が参加（26年8月）

© Internet Initiative Japan Inc.

Ⅰ - 2. 多業種のITインフラ構築・セキュリティ等需要を取り込み提供領域を拡大

IIJサービス

大手金融機関グループ向けインターネット接続インフラ統合



大手金融機関グループ向けサイバーセキュリティガバナンス強化支援

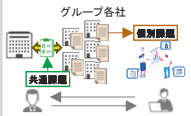
01 現状の整理・可視化

- ヒアリングを通じて体制・構成・業務を洗い出し、現状を可視化

✓ OA環境の構成表
✓ システム設定
✓ 業務フロー
✓ 運用体制図
✓ 内部管理態勢
✓ 運用ドキュメント／管理記録
✓ SaaS環境の管理
✓ 端末の管理 etc.

02 課題抽出

- 事業規模・特性に応じたリスク管理水準と照らし、改善事項や体制の不足を明確化



業種・会社規模等に合わせた課題解決を提案

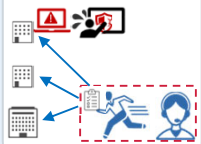
03 方針策定・改善支援

- 課題ごとの対応方針を策定・合意
- 規程・文書の改定やツール改善を支援

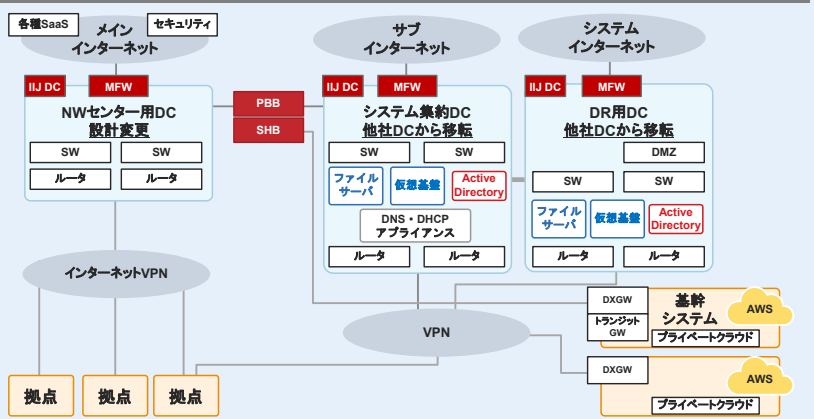


04 有事対応体制の整備

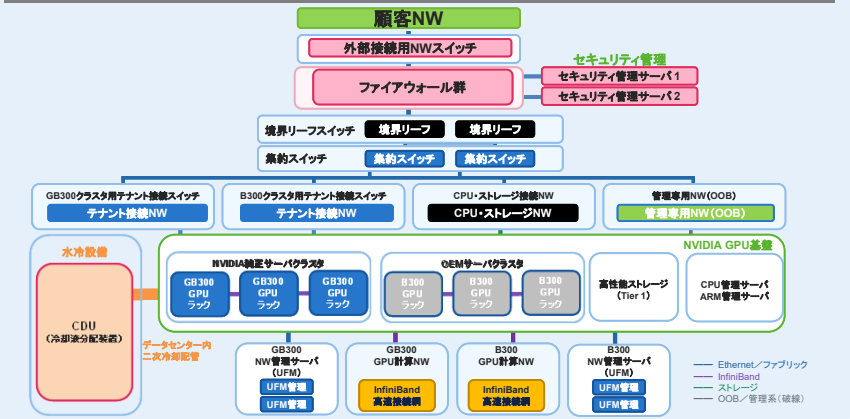
- インシデント発生時の現地調査から復旧までの支援体制を構築



小売事業者向けデータセンターインフラ再構築



GPU基盤構築



※PBB：IIJクラウド型ネットワークサービス（プライベートバックボーン）、SHB：IIJ Smart HUB（マルチクラウド閉域接続サービス）、WAF：Webアプリケーションファイアウォール

© Internet Initiative Japan Inc.

Ⅰ - 3.　AIの取り組み進捗

自ら使い込んだAIを、“安心して使える形”でお客様へ ― AIネイティブ企業への進捗

自社での実践（中での使い方）

全社：共通基盤とガバナンスで全員が活用

認証・ログ・ガバナンスを組み込んだ全社共通AI基盤。生成AI利活用ガイドライン第2版（26年10月施行）。目標：2030年3月までに全社業務の3割をAI化

開発：AI駆動開発で効果を発揮

新サービス開発はAIを前提に設計・開発・テストまで活用。
開発中の新サービスにおいて一部領域で開発体制を従来の約半数としながら
開発速度は2～3倍に向上

営業・運用・サポート：様々な現場業務へ実装

営業業務、セキュリティサービスのデリバリ・サポート、法人向けサービスサポート、情シス運用管理などで実装を推進。運用ノウハウをAIで形式知化し、組織の資産へ

社外への価値提供（外向け）

AIガードレール付きの企業向け基盤 26年9月提供開始

「IIJ AI活用支援ソリューション」：お客様専用環境に認証・アクセス制御・利用ログ管理を標準装備。LLMを選択でき、社内文書を参照するRAGにも対応。構築から運用・定着まで伴走

実践ノウハウをSIソリューションに

自社で大規模に適用し効果を確かめた“生きたAIノウハウ”を、情報システム部門の業務効率化・高度化に向けたオファリング・導入コンサルとして提供

AIを動かす社会インフラ（AIバックボーン）

AIを安全・継続的に動かす基盤に集中：大容量・低遅延NW、ソブリンクラウド、高発熱対応の水冷DC（白井DCC3期棟）

社内で効果を確かめたノウハウを、ガードレール付きのサービス・SIとしてお客様へ還元

© Internet Initiative Japan Inc.

Ⅰ - 4. サイバーセキュリティに対するIIJの考え方

AI時代に拡大する需要を捉え、セキュリティを次の成長エンジンへ

環境認識

AIが攻撃側の能力を一変

高度なAIにより、人間を遥かに上回るスピードと規模で脆弱性が発見される時代に

AIエージェントが新たな攻撃面に

読むだけでなく"行動する"権限を持つため、被害が連鎖し得る（各国当局も注意喚起）

セキュリティは経営課題へ

ランサムウェア・サプライチェーン攻撃が事業継続を直撃。SCS評価制度など制度対応も本格化

IIJの考え方

セキュリティを成長基盤へ

信頼を事業継続・DX・AI活用の前提と捉え、経営課題として継続投資

AI×運用知見で防御を進化

長年蓄積した脅威データと判断知をAIに実装し、検知・分析・対応を高度化・自律化

社会インフラの信頼を事業価値へ

ネットワーク、クラウド、SOCを自ら運用する強みを、再現性あるサービスとして顧客へ展開

ビジネスへの展開

セキュリティ事業拡大と高度化

継続的に成長するストック型セキュリティ事業への転換。コンサルティング・構築から、監視・運用・改善までを一気通貫で提供。大規模な体制強化、より高度なセキュリティCoE

AIネイティブな次世代運用

AIによるリスク評価・脅威分析・自動対応を融合。IIJの経験と技術で高度化する脅威に継続対応する次世代運用サービスへシフト

サイバーBCPの高度化

従来のネットワーク・エンドポイント防御から、クラウド、AI、ID、サプライチェーンまで事業領域を拡大。侵害時も重要業務を止めないネットワーク、バックアップ、切替・復旧を統合し、事業継続を支援

構造的に拡大する需要を、継続収益型サービスと高付加価値SI・コンサルの成長へ

© Internet Initiative Japan Inc.



日本のインターネットは1992年、IIJとともにはじまりました。以来、IIJグループはネットワーク社会の基盤をつくり、技術力でその発展を支えてきました。インターネットの未来を想い、新たなイノベーションに挑戦し続けていく。それは、つねに先駆者としてインターネットの可能性を切り拓いてきたIIJの、これからも変わることのない姿勢です。IIJの真ん中のIはイニシアティブ ―――――― IIJはいつもはじまりであり、未来です。

© Internet Initiative Japan Inc.